支え合いマップでご近所福祉

⑴なぜ支え合いマップづくり？

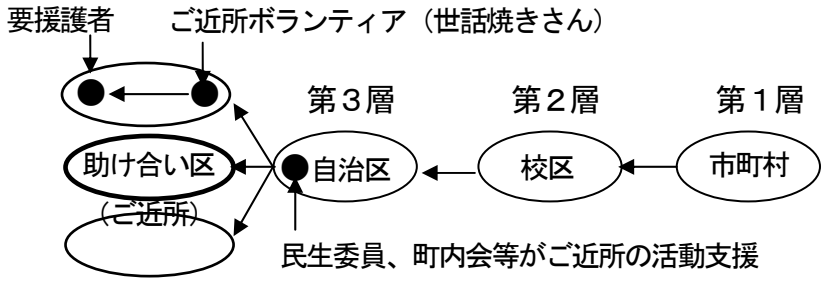
①今や超高齢社会。介護保険は行き詰り、地域の助け合いに期待が。
②助け合いはご近所（後述）で実践されている。この充実が課題。
③住民の助け合いは見えにくい。支え合いマップを作ると見える。

⑵支え合いマップづくりとは？

ご近所さんの手で助け合いの実態を住宅地図にのせ、取り組み課題を抽出し、ご近所さん主体でご近所福祉に取り組む。民生委員等がバックアップ。

⑶「ご近所」とは？

①第４層の「助け合い区」で約５０世帯。
②顔が見える範囲。助け合いが実践中。
③要援護者はご近所から出られない。だからご近所福祉の充実を切に願っている。
④幸いご近所には世話焼きさんもいる。



⑷支え合いマップのつくり方

①約５０世帯のご近所ごとに作る。
②ご近所から住民が５名ほど集まる。
③世話焼きさん主体に、気になる人・事を探す。解決のヒントも探す。
④解決策を参加者で考える。
⑤各層の関係者は担当部分を持ち帰る。

❶世話焼き中心にご近所でマップ作り

❷気になる人探し
一人暮らし高齢者、老々世帯等。

❷気になること探し
買い物・通学が不便等。災害問題。

❸ここが問題
助け合いでまだ解決されていない問題を探す。

❹解決策探し
当事者の行動や周囲の関わりをヒントに解決策を探す。

❺世話焼き中心に解決行動
解決行動はご近所の世話焼きさんの手で。関係者はご近所の支援。ご近所流で。

⑤「ご近所ボランティア」の誕生

①ご近所内に在住の世話焼きさんが主体。
②専らご近所内の諸問題に関わる。
③支え合いマップづくりで域内の問題を発掘。
④町内会は彼らの自由な活動を保障し、支援する。

⑥世話焼きさんとは？

①困った人がいると非常に気になる、天性の資質。
②即刻行動を始める。だから要援護者に見込まれる。
③世話焼きさんと世話役さんは本質的に異なる。

⑦なぜ世話焼きさんなのか？

①彼らは足元の要援護者を真剣に探しているから、気になる人が見つかる。
②既に要援護者に関わっているから、その抱えた課題も解決策もわかっている。
③課題を見つけたら、即行動に移すからご近所福祉がすぐに始まる。